

Ⅲ 特別支援教育研究連合 各研究部会

「この研究は公益財団法人日本教育公務員弘済会
宮崎支部からの助成金を受けて行っています」

視覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「未来につなげる明星教育～授業力・指導力向上を目指して～」

2 主な研究・活動の内容

本部会では、視覚に障がいのある幼児児童生徒の各発達段階に必要な指導内容や指導法を「継承していくべき専門性」という視点で情報共有し、実践に結びつけると共に、これからの時代に対応した教育活動の在り方について研究してきた。しかし、これまでの研究や研修を元にそれぞれの職員が指導に取り組んでいるが、本来最も重視すべき授業力や指導力については十分な協議や共通理解にまで至っていない現状がある。今一度、職員一人一人が日々実践している学習及び生活指導場面の指導を専門性の維持・継承の視点から見直し、幼児児童生徒の未来につなげるための取組が必要であると考えます。

そこで、本年度からの2年間は、視覚障がい教育における専門的授業力・指導力に視点をおいた研究に取り組んでいきたい。明星視覚支援学校においては、各学部の実態に応じた課題研究を行い、長年取り組んできた実践授業に事後研究会を加えることで適切な指導・支援の在り方を協議し、PDCAサイクルでの授業づくりを活性化させる。さらに、幼児児童生徒の実態や各学部での指導の様子を共有することを目的に授業参観週間を設け、視覚障がい教育に携わる職員同士の情報交換を推進していく。

また、これまでと同様に、本県の視覚障がい教育の充実を目指し、視覚障がい教育を実践している明星視覚支援学校と2校の弱視特別支援学級の情報共有や連携の在り方について模索していきたい。

(1) 合同研修会の形態の工夫

視覚障がい教育についての研修の場を確保し、最新の情報を発信していくことも本部会の一つの役割である。以前は弱視特別支援学級担任が明星視覚支援学校へ来校し、直接意見交換をしたり研修に参加したりしていたが、コロナ禍においては、リモートによる意見交換会や外部講師をリモート招聘した研修会への参加という形に実施方法に変更した。昨年度まではその都度電話で遠隔会議システム ZOOM の情報 (ID 及びパスワード) を伝達していたが、今年度より会の依頼文書の中に記載することでスムーズなオンライン会議及び研修が可能となった。以下、詳細を報告する。

① 第1回合同研修会「意見交換会」〈4月〉

毎年4月に行っている本部会の代議員会の後、意見交換会を実施した。これには、明星視覚支援学校の特別支援教育コーディネーターも参加し、巡回相談や電話相談における内容とも結びつけながら意見交換を行った。2校の弱視学級のうち1校は参加ができなかったものの、児童指導において困っていることや取り組んでいること等について情報を交換することができた。

また、本年度の連携の在り方についても協議した。昨年度の体制と異なり、弱視特別支援学級担任のうち一人は本校勤務の経験があり視覚障がい教育において高い専門性をもつ教員であるため、授業参観等の必要性がなかった。もう1校の弱視特別支援学級担任からは、対象生徒の生活指導において苦慮する様子があり、授業参観の必要性はやや低いようであった。このケースも、明星視覚支援学校との巡回相談や電話相談にてその都度解決している。

② 第2回合同研修会「視覚障がい教育研究部会夏季研修会」〈8月〉

広島大学大学院氏間和仁氏をリモート招聘し、視覚障がい教育における情報教育の必要性とその活用について講演会を開いた。講師と本校内外の参加者をリモートでつなぐ形式で実施した。参加者からは、発達段階に応じた指導方法を具体的な事例や画像等を交えて教えてもらい大変参考になった、情報活用能力をそれぞれの発達段階で高めていくことの意味や教師としての関わり方、学校を卒業した後の社会生活を見据えた情報活用の指導の必要性など大変わかり

やすい講演だった等の感想が挙がった。弱視特別支援学級のうち1校は参加できなかったため、講演の様子を録画したものを送付し、情報共有を図った。

③ 第3回合同研修会〈2月〉

本年度の取組を中心に協議した。2校の弱視特別支援学級のうち1校に在籍する児童が本年度卒業、次年度明星視覚支援学校中学部への入学が決まったことを確認した。

(2) 教材教具展示会

手作り、既製品を問わず、指導に効果的であった教材を展示し閲覧し、見えづらさに配慮した教材や触って学べる教材等、職員同士が互いに学び合う場となった。例年、弱視特別支援学級担任も明星視覚支援学校に来校し参加しているが、コロナ禍であることを踏まえ、教材教具を手に取りその材質や使い方を直接学ぶ本展示会は、明星視覚支援学校職員のみで開催した。この展示会は、それぞれの職員の工夫を共有し、その後の授業に生かすことが目的の一つである。展示・閲覧だけでなく教材教具に関する説明や使い方等を録音・録画し分類整理することでさらに共有する場の広がり、個人の専門性の継承また発展に繋がるのではと考える。次年度は、このような反省を生かした展示会にしていきたい。

(3) 情報共有の工夫

① 研修資料、動画の提供

明星視覚支援学校が新任者を対象に行っている視覚障がい教育の基本的事項についての研修（基本研修～眼疾、視覚障がい教育、点字2回、教育機器2回、歩行2回、弱視教育、進路、計10回）について、資料と動画に残し、自主研修や寄宿舍研修および弱視特別支援学級の職員等が有効に活用できるようにした。

② 職員図書 の 充実

年度初めに視覚障がい教育関連の図書について紹介した。その後は、研修部室に保管することで自由に書籍を閲覧できるようにし、職員が研修できる環境の整備を行った。図書に限らず、これまでの研修会を録画したものや他校の研究紀要等、視覚障がい教育における専門性を継承し発展できる貴重な情報が多くある。研修部室の整頓を計画的に行い、次年度以降、職員に視覚障がい教育関連の図書や情報をさらに身近に感じてもらえるような取組を行いたい。

(4) 明星視覚支援学校及びサテライト会場における情報提供活動

明星視覚支援学校、サテライト会場（日向市）において、視覚障がい児（者）の生活や学習に有効な福祉機器類を展示し、個人や関係各所への情報発信を行った。

(5) 各研究班におけるテーマ別の取組、研究大会への参加

明星視覚支援学校を中心に下記の研究班に分かれて研究・実践に取り組んだ。

- ・ 並行通園児のニーズに応じた教育活動の工夫～本校の役割の明確化と実態に合った指導・支援をめざして～
- ・ 子どもが「分かる」「できる」を実感する授業づくり～4つの授業チェックポイントを視点として～
- ・ 生徒の実態に合わせた教材研究～ICT機器を活用して～
- ・ 新学習指導要領を基にした本校の課題分析～総合的な探究の時間の指導・支援の在り方に関する研究～
- ・ 新たな国家試験に向けての授業改善
- ・ 一貫性のある指導の定着を目指して～歩行と清掃指導の取り組みから～

3 主な研究成果

コロナ禍における弱視特別支援学級との連携の模索は2年目に突入した。昨年度の反省を生かしスムーズに進んでいるところがあるものの、教材教具展示会やその他の視覚障がい教育に関する情報の公開について改善の余地があると考えられる。今後、検討していきたい。また、明星視覚支援学校での研究は2カ年計画の1年目が終了した。次年度は

まとめの年となる。充実した研究となるよう、職員全員で協力し合って進めていきたい。

聴覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「新たな時代を生き抜く子どもを育む魅力ある聾学校を目指して」
～変化する社会情勢の中で聾学校が果たすべき役割～

2 主な研究・活動の内容

○ 年間活動報告

① 活動

【聴覚部会総会】

- ・ 期日：令和3年7月27日
- ・ 会場：都城さくら聴覚支援学校
延岡しろやま支援学校 ※リモート
- ・ 内容：今後の活動方針、予定について

② 各大会への参加

ア 第55回 全日本聾教育研究大会 島根大会

令和3年10月14日（木）から15日（金）まで ※ オンライン

イ 第26回 九州地区聴覚障害教育研究大会 宮崎大会

令和3年11月11日（木）から12日（金）まで ※ オンライン

3 主な研究成果

- 総会では、今年度から「聴覚障がい教育研究部会」として会を運営していくに当たり、今後の予定や方針等の確認を行った。全会員の専門性の向上に資する組織として充実していくよう、役員体制や活動計画等を検討した。

また、都城さくら聴覚支援学校と延岡しろやま支援学校の両校が今年度の九州地区聴覚障害教育研究大会の主管校となっていることから、本大会の運営と各研究協議会、分科会等への参加に向けた研究や発表のまとめを、今年度の主な活動とすることを確認した。

- 九州地区聴覚障害教育研究大会では、コロナ禍を受け、初めての試みであるオンライン開催となり、宮崎大会においては事務局を中心に、都城さくら聴覚支援学校と延岡しろやま支援学校聴覚部門の職員全員が協力して準備に取り組んだ。Zoomの接続や操作についての研修や、他県の聴覚支援学校を結んだの接続リハーサル、他校の発表者や助言者と協議内容についての連絡調整、講演会の準備、手話通訳担当者への研修会の実施、更には当日の会をスムーズに進めるための道具の作成等、職員はそれぞれの立場で創意工夫をしながら、大会の成功を期して努力を重ねた。

それと同時に、都城さくら聴覚支援学校では、各学部、寄宿舍が、研究協議会に向けて研究のまとめや事前に寄せられた質問への回答の検討を行ったり、各分科会等での協議の柱や会の進め方について検討したりするなど、一人が2役3役（職員によっては4役）をこなさなければならぬ状況の中で、研究大会当日を成功のうちに終えることができた。

これらの経験は、今後の聴覚障がい教育研究部会として実施する研究大会のソフト面、ハード面の両面で生かされることになると思われ、本会にとって大きな財産となった。

難聴言語教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方
～ 人と関わる力を高める支援を通して ～

2 主な研究・活動内容

(1) 年間活動報告

回	期日	主な内容
1	5月25日（金）	・新型コロナウイルス感染防止のため中止
2	6月25日（金）	・九難言宮崎大会実行委員会 ・令和2年度の事業報告、決算報告 ・令和3年度の事業計画、予算案 ・各専門部会（令和3年度計画について等）
3	10月8日（金）	・九難言宮崎大会実行委員会 ・令和4年度九難言鹿児島大会実践発表検討 ・各専門部会（活動報告、共通理解事項の確認）
4	12月10日（金）	・講義「構音指導について」 講師 山下 優子 氏 ・令和4年度九難言鹿児島大会実践発表検討 ・各専門部会（活動報告、共通理解事項の確認）
5	2月3日（木）	・令和4年度九難言鹿児島大会実践発表検討 ・活動総括と次年度の活動計画について ・各専門部会（引継ぎ事項の確認）

3 主な研究成果

(1) 成果

本年度は、第1回研修会が新型コロナウイルス感染防止のため中止となったものの、その後の部会は計画的に開催することができた。本年度は、昨年度できなかった講義を実施し、基本的な構音指導について学ぶことができた。用具を使っての指導法は具体的で分かりやすく、即実践につなげることができた。また、全体で児童の実態に沿った具体的な指導法、技術についても情報交換を行うことができた。

本年度予定されていた第45回九難言研宮崎大会は中止となったものの、要項を作成し、各県で実践された内容をまとめることができた。次年度は、鹿児島で開催される。その大会で発表する内容の検討も行うことができ、全体で研修を深めることができた。

(2) 課題

ことばの教室では、マスクを外しての指導が多くなるため、新型コロナウイルス感染防止対策として各校で指導を工夫して行っている。情報交換を密にすることで、指導法の工夫改善や専門性の向上につながると考える。今後は、ZOOM研修等これまでとは違った形での開催方法も検討していく必要性があると思われる。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回事務局会	6月3日(木)	Zoomを使ったオンライン会議 ホスト…佐土原小学校	・ 事業計画検討
第1回理事会	6月17日(木)	大宮小学校	・ 総会決議（紙面決裁） ※新型コロナウイルス感染予防のため中止
第2回事務局会	8月6日(金)	宮崎市教育情報 研修センター	・ 事業内容検討 ・ 第49回九州地区情緒障害教育研究会福岡大会視聴 ※新型コロナウイルス感染予防のため、中止 (記念講演のみオンライン視聴)
第3回事務局会	11月9日(火)	Zoomを使ったオンライン会議 ホスト…大宮小学校	・ 今後の事業計画等について ・ 事務局拠点校設置について
通級指導教室 担当者研修会	1月～2月	オンデマンド研修 (動画配信)	・ 通級指導の在り方等について ・ 通級指導教室の運営について ・ 自立活動の指導について
第4回事務局会	1月18日(火)	大宮小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会に向けて
第2回理事会	2月17日(木)	Zoomを使ったオンライン会議 ホスト…大宮小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ（次年度の引継ぎ等）
第5回事務局会	3月8日(火)	大宮小学校	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について

3 主な研究成果

本年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、活動の規模を最小限にして運営を行った。また、Zoomを使用したオンライン会議等を積極的に行った。

(1) 成果

今年度の研修については、令和3年度第49回九州地区情緒障害教育研究会「福岡大会」のオンライン開催に関わる周知を行い、多数の先生方に視聴参加していただくことができた。

立命館大学 宮口幸治教授の記念講演『「困っている子どもの背景と支援」～コグトレを使った具体的な支援～』において、様々な事例を紹介していただき、大変好評であった。

また、通級指導教室担当者のためのオンデマンドによる研修を行った。国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に「通級指導の在り方」に関するすばらしい研修動画を作成していただき、先生方に視聴できるように普及を図ることができた。

今後の円滑な部会運営を目指して、事務局拠点校設置に向けて協議を行い、次年度以降の見通しをもつことができた。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。さらに、通級指導教室の増設に伴い、より高い専門性も求められている。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

知的障がい教育研究部会

1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

2 主な活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
6月25日	第1回理事会及び総会（オンライン）	各学校
7月27日	第11回知的部会研究大会「日向大会」収録	日向ひまわり支援学校
11月12日	第2回理事会（オンライン）	各学校
2月 4日	第3回理事会予定（オンライン）	各学校

(2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「和歌山大会」令和3年10月28・29日
紙面開催

- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「熊本大会」令和3年8月5・6日
オンラインによる参加

提案発表者

- ◇第6分科会 交流及び共同学習「共に学び、豊かに育ち合う交流及び共同学習の在り方」
提案発表者 新富町立新田小中学校 教諭 長友 三織

- ◇第7分科会 合理的配慮の実際「一人一人の可能性を最大限に伸ばす環境づくりのための合理的配慮の実際」

提案発表者 県立みなみのかぜ支援学校 教諭 長友 さくら

司 会 者 県立みなみのかぜ支援学校 教諭 湯浅 真

助 言 者 宮崎県教育庁特別支援教育課 課長補佐 山之口 義弘

(3) 知的障がい教育研究部会研究大会の開催

- 第11回宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会研究大会「日向大会」
令和3年7月27日（収録）、7月29日から9月末までオンデマンド視聴

研究大会運営実行委員長 県立日向ひまわり支援学校 校長 種子田 保

研究大会事務局長 県立日向ひまわり支援学校 教諭 飯干 知子

研究大会主題 「多様な子供たちが自分らしく生きるみやざきの特別支援教育」

講演 演題「発達につまずきがある子どもを輝かせる授業と学級経営」

講師 東京都立矢口特別支援学校 主任教諭 川上 康則 氏

3 主な活動の成果

一昨年より組織見直しを行い隔年開催となった研究大会は、昨年度から日向ひまわり支援学校が計画を進め、東京都立矢口特別支援学校川上先生のリモート講演を収録、後日オンデマンド配信という新たな研究大会の形で実施された。県内の特別支援学校、小中学校を中心に校内研修等で視聴され、県内約500名以上の参加があった。これまでの集合開催と異なり、遠方からの参加が難しかった学校の参加の利便性、各学校の行事計画等に沿った視聴の日時設定のしやすさなど、多くの方々から好評であった。

昨今の現状、これからの時代を踏まえた新たな研究大会のスタイルとして、今年度の研究大会の反省を行い、よりよい研究大会の実施に向けて、次年度担当校へと引き継がれた。次年度担当校は都城きりしま支援学校である。

令和3年度 病弱教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

新学習指導要領を踏まえた授業づくり

～ICT を効果的に活用した対話的な学びをめざす授業づくり～

2 活動内容

(1) 年間活動報告

期日	事業内容
5月上旬	病弱教育研究部会理事会・総会
5月～7月	ICT活用指導力に関する調査 ICT活用に関する理論研修・実技研修
8月2日	病弱教育研究部会 夏季研修会
8月	九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 佐賀大会 ・本校中学部の実践を発表
8月中	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 奈良大会 ・オンデマンド配信視聴による参加
9月～12月	ICTを活用した対話的な学びを目指す授業づくり 授業実践
2月1日	研修報告会
2月10日	病弱研究部会理事会

(2) 病弱教育研究部会夏期研修会

- ・ 児童虐待に関する研修

講師 甲斐 英幸氏（特定非営利活動法人 子ども虐待防止みやざきの会代表）

3 主な研究の成果

(1) 成果

病弱のある子供たちは、医療的な配慮を要するために活動に制約がある、様々な要因から登校意欲が持ちにくくなっている、人とのコミュニケーションに苦手意識がある、集団での関わりの中で学ぶ機会が得られにくいなどの課題を抱えていることが多い。これらの課題の解決にICTを活用することが効果的であると考えられる。また、近年はGIGAスクール構想が唱えられICT機器の整備が急速に進んでいるが、宮崎県の教師のICT活用指導力は全国でも低く、教師のICT活用指導力を高めることは急務であると考えられる。これらのことより、今年度は「新学習指導要領を踏まえた授業づくり～ICTを効果的に活用した対話的な学びをめざす授業づくり～」をテーマとして研究に取り組んできた。文部科学省が例示している指導事例や全国の先進的な取組事例を共有したり、宮崎県が導入したGoogle Workspace for Educationの使い方についての実技研修を行ったりした後に、それぞれが自分の授業の中でそれらを取り入れた学習指導案を作成し、授業を行ったり、実践報告書の提出を行ったりした。それぞれの職員が自分の授業にICTを取り入れた実践を行うことで、提出された学習指導案、実践報告書より、教師のICT活用への意識の高まりや活用指導力の向上が見られた。

(2) 課題

今年度は、教師がICT活用指導力を高め、授業で活用することで、指導の効果を上げることに主眼をおいたが、今後は児童生徒自身がICTを使いこなしながら学びを深めていくことが大切となってくる。病弱のある子供たちにとって、ICTは社会とつながるツールとなっていくことが期待される。指導に取り組む教師のICT活用に関する技量や意識にも差が見られることから、今後も職員の理論研修・実技研修・実践研究を行っていく必要があると考えられる。

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

学習指導要領を踏まえた肢体不自由教育の充実をめざして

2 主な研究・活動の内容

(1) 活動内容

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

① 活動計画

期 日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4 月		九肢研（宮崎大会） 第1回実行委員会 9日（金）
5 月		九肢研（宮崎大会）役員会及び総会 <文書審議> 21日（金）～31日（月）
6 月	第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・代議委員会 <オンライン会議> 25日（金）	九肢研（宮崎大会）第2回実行委員会 10日（金）
7 月		九肢研（宮崎大会）第3回実行委員会 30日（金）
8 月		
9 月		九肢研（宮崎大会）第4回実行委員会 22日（水）
1 0 月	第24回肢体不自由教育研究大会<Web 開催> 14日（水）～28日（木）	第58回九州地区肢体不自由教育研究大会（宮崎大会）<Web 開催> 14日（水）～28日（木）
1 1 月		
1 2 月		第67回全国肢体不自由教育研究協議会（富山大会）13日（月）～27日（月）Web 開催 九肢研（宮崎大会）第5回実行委員会 20日（月）
1 月	第2回肢体不自由教育部会 理事会・代議委員会 17日（月） <場所 清武せいりゅう支援学校> 部会誌第26号発行	
2 月		九肢研大会大分大会事務局への引継ぎ 1日（火）
3 月		

② 第58回九州地区肢体不自由教育研究大会宮崎大会（第24回肢体不自由教育研究大会）

本年度の九州地区肢体不自由教育研究大会は、本県に事務局が置かれ、第23回宮崎県肢

体不自由教育研究大会と兼ねて行うこととなった。コロナ渦への対応として、2週間にわたりオンラインで開催された。

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。

文部科学省調査官の講話では、菅野和彦氏に來県していただき、「肢体不自由教育の現状と今後への期待～学習指導要領の着実な実施に向けて～」という演題で講演していただいた。

記念講演では、シンガーソングライターであり、ラジオパーソナリティーとしても活躍されている真北聖子氏を迎え、「限りある人生を限りなく楽しむために」という演題で講演していただいた。高校時代に発病して以来、悩みながらも逞しく生きてこられた過程をユーモアあふれる語り口で、御講話いただいた。

分科会では、7分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、指導助言と続いた。各分科会でそれぞれの学校の特色ある実践の発表があり、活発な議論が展開された。

3 主な研究成果

本年度は、2回の理事会・代議員会を開き、九州地区肢体不自由教育研究大会宮崎大会（第24回肢体不自由教育研究大会）を開催し、1月に部会誌第26号を発行した。清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）の両校の抱える課題や疑問点について情報の共有を行い、令和4年度の研究大会に向けて講師の選定や演題の設定等、準備を進めている。

また、助成金を活用して職員の専門性を向上させながら、資質向上、日々の教育の充実に努めた。